

## ウォールナット無垢テーブルの製作について

今回、材木屋であるマルダイが建築会社様よりウォールナット無垢板支給されて、テーブルを製作することになりました。無垢板は2枚で、ダイニングテーブルとリビングテーブルを作りますが、大きな反り、大きな節、割れがあり簡単にはいきませんでした。



ダイニングテーブル用天板です。  
反り、奥側に節と割れがあります。  
削らないとよくわかりませんが、  
希望の天板厚60以上とれるか  
ちょっと不安がありました。  
会社へ持ち返って採寸することに  
しました。  
天板サイズ：2200\*800

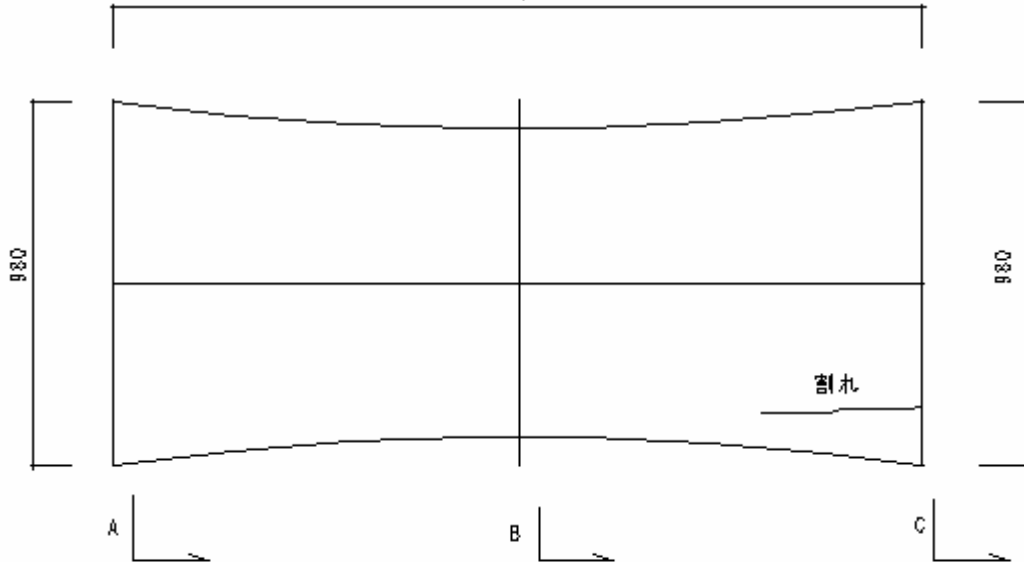


リビングテーブルのほうは、反り  
少なく、天板は問題なく取れると  
思いましたが、予定していたダイニ  
ングテーブルの脚が取れません。  
残りは反り防止材などに使用します。  
天板サイズ：1200\*830

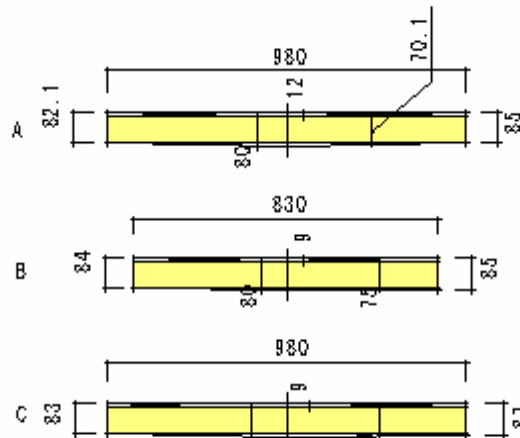
そこで、ダイニングテーブル脚\*4本とダイニング、リビング両テーブルの幕板はマルダイ側で新たに仕入ることになりました。

### ダイニングテーブル天板反り測定

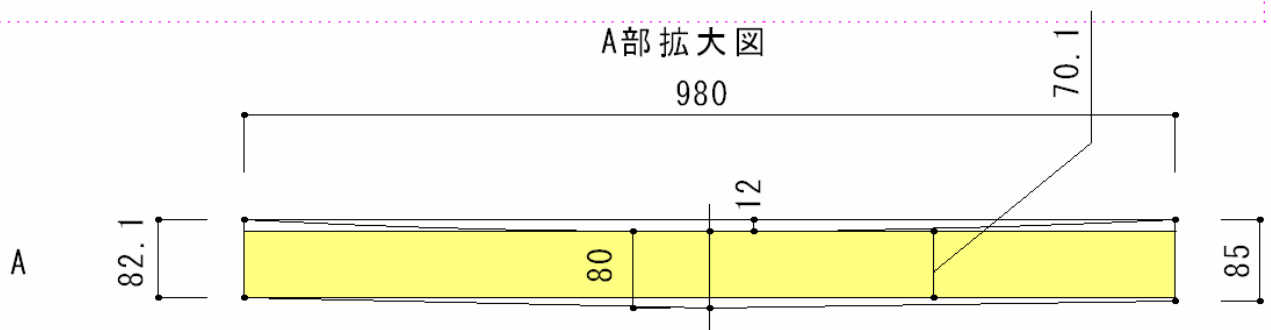
9°に9°天板加工の検討  
天板厚の推定  
2,200



仕上がり \* 予測70ミ前後

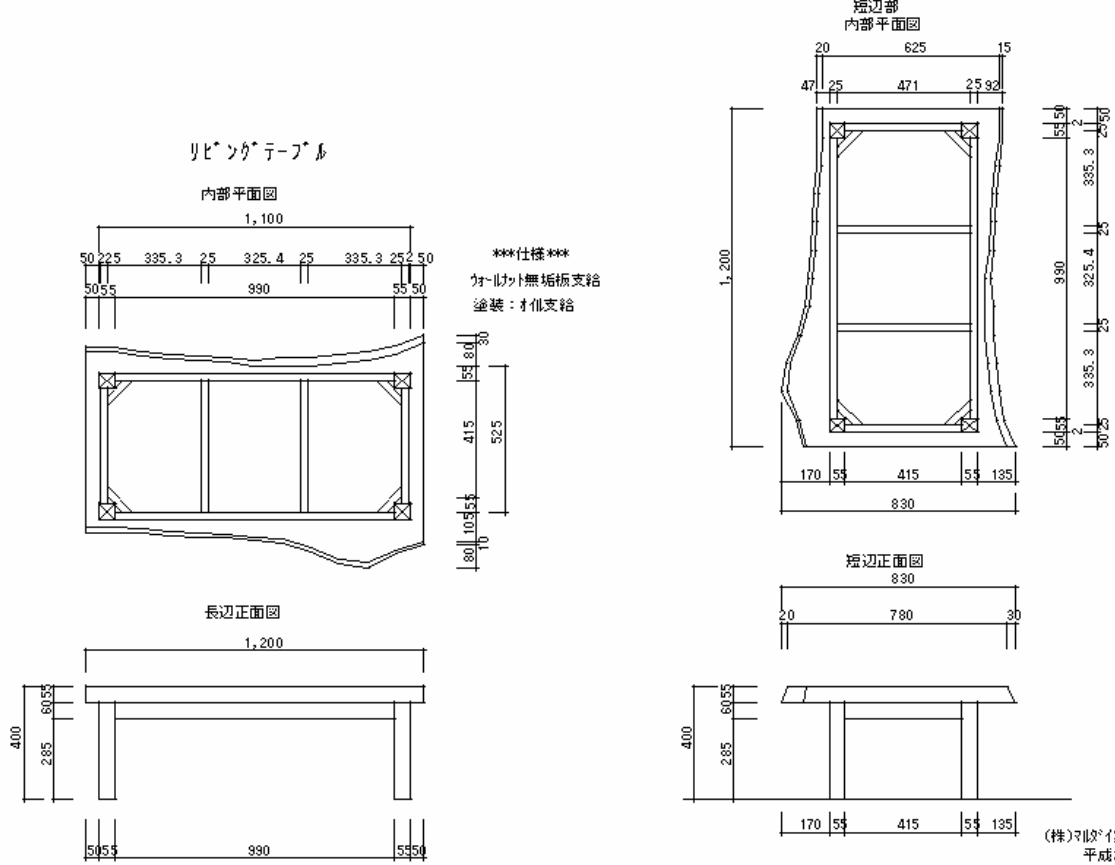
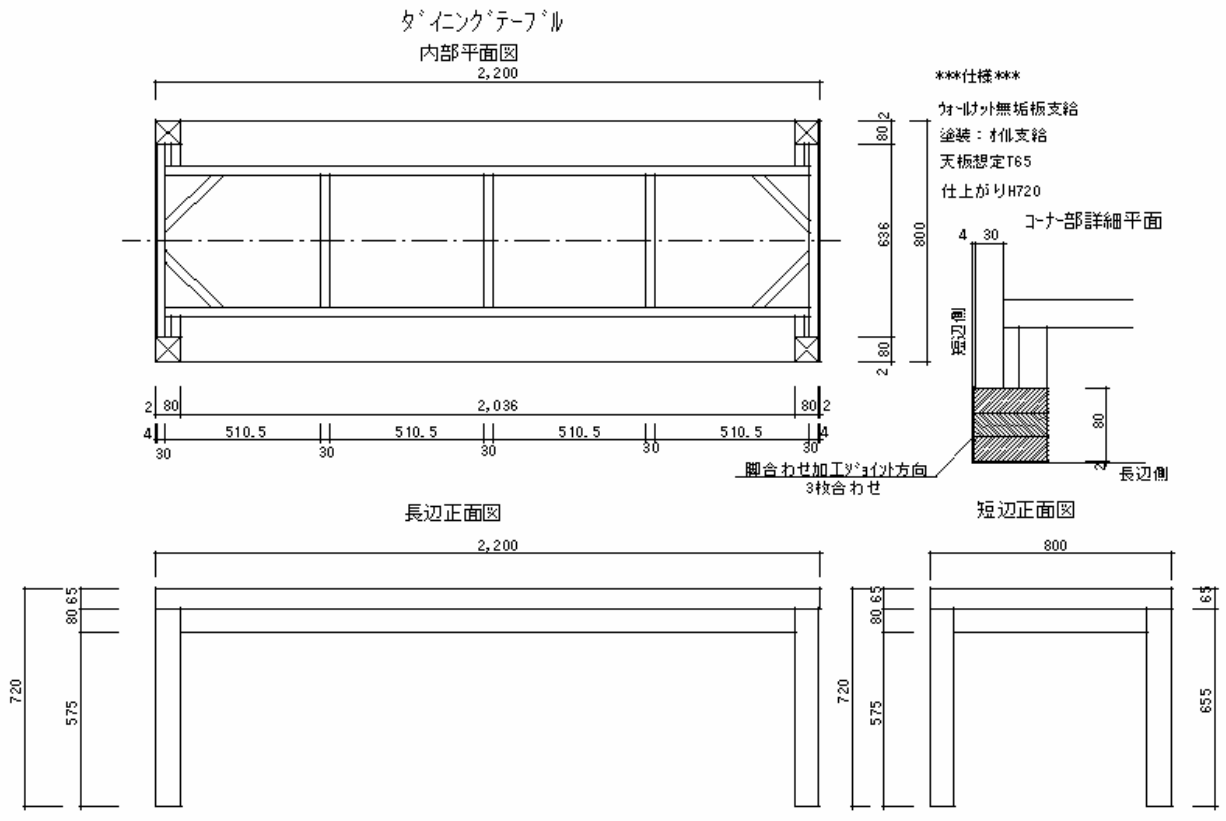


仕上がり \* 予測70ミ前後  
(株)マルダイ 家具部  
平成20年9月18日



測定結果では、ダイニングテーブルt70前後となりました。(最終仕上げ65でした。)

そこで、両テーブルの製作図を書いて正式な部材サイズの検討に入りました。あらかじめ、デザイナーさんからは希望の形とサイズが提示されていますが、出来るだけそれに近づけるように進めました。





まず、NCにて天板寸法に切断します。

次に天板はNCで60のルーターにてフライス加工し、反りを取り除いて行きます。この筋はワイドサンダーでとり除きます。



スケール部に長い割れあり、また、中央に割れ欠けた節もあります。



割れ節あり。



脚角足補強状況。  
角足は無垢 3 枚合わせ貼り。

ダイニングテーブル脚の組み立て状況。



リビング天板は耳付きであり、長さ方向のみ丸鋸にてカットし、NCで同様のフライス加工しました。  
これから、耳部を手掛けサンダーで、天然風に仕上げます。  
最終表面はワイドサンダーにて行います。



### ダイニングテーブル、リビングテーブル製作注意点

1. ダイニングテーブル脚の組み立ては変則的な形状で、長辺方向の揺れに対して強度の補強をすこしでも図る。(設計側の指定形状です。)
2. 脚の80\*80角は1本物がないので、t28のウォールナット無垢板を3枚貼りとして製作し、継ぎ目を長辺側から見えない様にする。
3. 割れに対してはウッドパテで埋めて、オイルステインで色づけ調整をする。また、大きな割れについては単板をボンドを塗りながら、幾重にも重ね貼りして割れ部分を埋めていきます。単板の厚みが筋状の空目として出てきます。しかし、割れ止めではありませんので、ご了解下さい。
4. 大きく割れている節については節より大きい穴を開けてそこに丸節を埋込ます。今回、ウォールナット材の節を用意出来ないため、桧材の節をはめ込み色づけして仕上げます。
5. 天板の表面処理してワイドサンダー掛けを行い、パテうめ、節埋めの状況を見ながら、仕上げて行きます。
6. 仕上げのクルミオイルは、ウエスで少しずつしっかり伸ばしながら塗っていきます。漬けすぎに注意して下さい。



仕上がり状況です。

手前は割れ、節処理済みです。

2200\*800\*H720



中央の丸節は桧節穴埋めです。



手前はウォールナットの綺麗な空が出ています。  
この納品は2Fで天板だけで4人掛かりで持ち込みました。



脚部取り付け状況です。  
このデザイン上、長辺方向の揺れが  
発生しないように、テーブルは、  
持ち上げて移動して下さい。  
この旨を伝えています。



リビングテーブルはほとんど支給材  
で仕上がりました。

脚は55\*55角で天板の端材で間に  
合いました。

1200\*830\*H400

(株)マルダイ家具部 鈴木  
平成20年11月5日